

願海寺城

がながいじょう

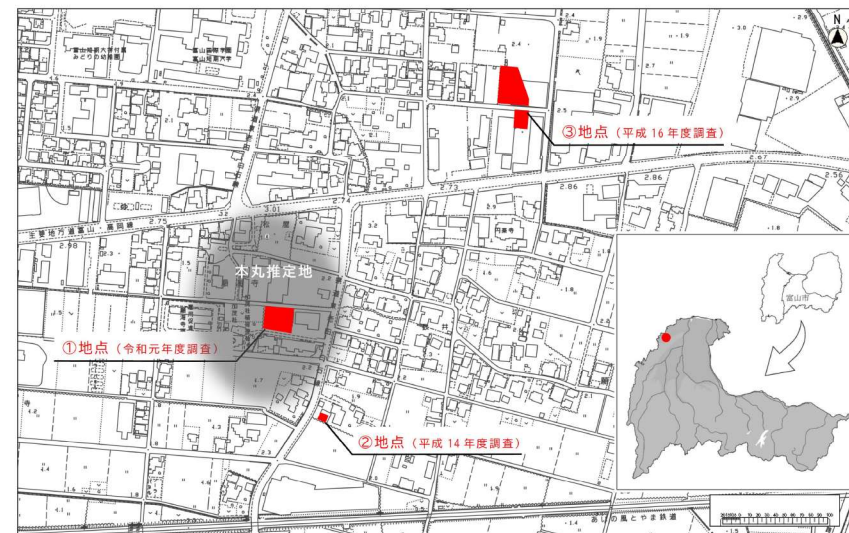
富山市願海寺城内

願海寺城は、富山市北西部の平野に位置する平城です。東を流れる鍛冶川や城の周囲に広がる低湿地を利用した、天然の要害でした

16世紀半ば頃に築かれ、越中の国人（在地の領主）、寺崎民部左衛門盛永が城主として居城しました。寺崎氏は元龜3年（1572）には上杉方に属しましたが、天正6年（1578）に上杉謙信が死去すると、一時織田方に転じました。しかし、佐々成政ら織田方の前線基地である小出城（富山市水橋小出）が上杉氏に攻められたことを機に、再び上杉方に寝返ったため、天正9年（1581）、織田勢に攻められて落城しました。

願海寺城は、文献史料に、「實城」（本丸）と「二之廻輪」（二の丸）の記載があることから、2つ以上の曲輪からなる城であったと考えられます。本丸の場所は、城館にちなむ「館本」という小字が残る加茂社稻荷神社周辺と伝えられます。

今回の展示では、これまでに行った3ヶ所の発掘調査の成果を紹介します。



①地点の発掘調査

本丸の推定地で行った調査で、直角に折れ曲がる16世紀の堀を検出しました。幅9～13m、深さ2m以上で大規模で、本丸に伴う堀と考えられます。

また、この堀が掘られる前の15世紀前半～中頃には、幅5.4mの小型の堀が存在していたこともわかりました。城が築かれる前に居館あるいは寺が存在し、その堀を拡張して、願海寺城の堀に造り直したとみられます。

出土遺物には、敵に投げつける石（つぶて）や焼けた跡のある石など、戦に関係するとみられるものがあります。



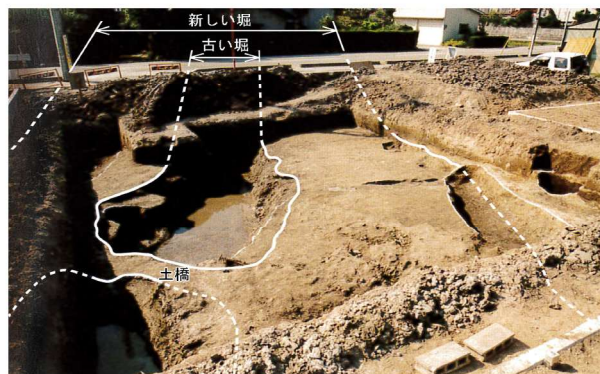
小さな正方形や溝状に掘っている部分が発掘調査区。調査区で見つかった遺構から点線のとおり直角に曲がる堀が推定できる。

②地点の発掘調査

調査区は、本丸推定地のすぐ南東に位置します。本丸とは別の曲輪あるいは城下町の範囲と推定されます。

調査では堀が見つかりました。①地点の調査と同様、堀は新旧の時期があり、15世紀の古い堀を、16世紀に掘り直しています。古い時期の堀は幅3～4m、深さ約1mで、新しい時期の堀は、幅11m以上、深さ約0.2mです。古い時期の堀は途中で途切れており、ここを土橋として使ったとみられます。

堀からは、陶磁器や石臼のほか、漆器、木簡などの木製品が多く出土しました。

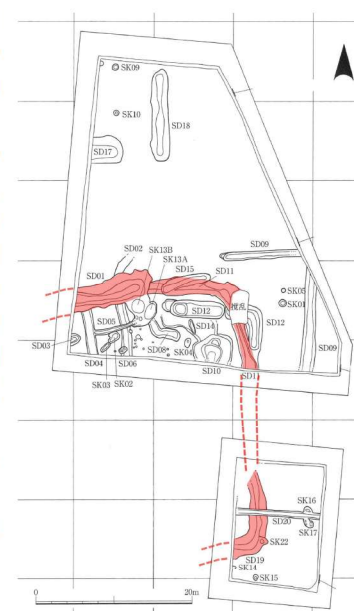


③地点の発掘調査

調査区は、本丸の推定地から北東へ約350mの位置にあり、城下町の範囲とみられます。

調査では、戦国時代の溝や穴などが見つかりました。溝は方形にめぐるように見つかり、屋敷地の周囲に掘られた区画溝と考えられます。区画溝で囲まれた屋敷地の範囲は、南北32m、東西20m以上に復元されます。

出土遺物には、かわらけ・珠洲・越中瀬戸・唐津・青磁などの陶磁器のほか、漆器・下駄・木簡・曲物などの木製品、さらに砥石・鎌・銅銭など多様なものがあります。



赤い部分が屋敷地の周囲の区画溝。復元すると方形にめぐっていたと推定される。

新庄城

しんじょうじょう

富山市新庄町一丁目地内

新庄城は、富山市北部の平野にある戦国時代の平城です。城の跡地には現在、富山市立新庄小学校が建っています。

戦国時代の天文年間（1532～55年）に三輪飛騨守が築いたと伝えられ、その後、神保氏・上杉（長尾）氏・織田氏などの武将の攻防の舞台となりました。江戸時代の文献によると、本丸の規模は東西約137～142m、南北約95～127m、二の丸は約55m四方とされます。

平成25年度に新庄小学校体育館の改築に伴って発掘調査を行い、堀や土塁、鍛冶場、井戸など、城の存在を裏付ける多くの遺構・遺物が確認されました。文献に記される前の15世紀以前（室町時代）に、堀や土塁を備えた館があり、応仁の乱（1467年）前後にそれらを大型化させ城として整備したと考えられます。さらに16世紀中頃には大がかりな盛土造成を行い、より大きな城に造り変えられたこともわかりました。

また、さらに古い飛鳥時代から平安時代にすでに集落が存在していたことも発掘調査で明らかになっています。

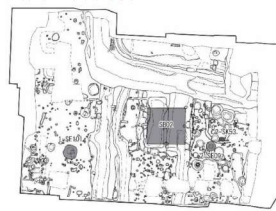


平成25年度に新庄小学校で行った発掘調査

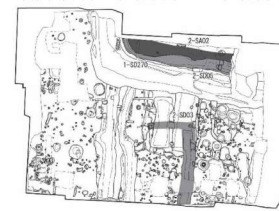
年代	城主	出来事
1520(永正17)	長尾為景(上杉方)	越中守護代神保慶宗と対戦し神保氏が敗れる(新庄の合戦) ※新庄の名が史上にあらわれる最初 臨時の軍事拠点か
～1550(天文19)	三輪飛騨守(神保方)	天文年間に三輪氏が築城し代々居住する。 権名方と争う。
1550(天文19)	豊田備後守(権名方)	三輪飛騨守没落し、権名方大村城主豊田備後守が新庄城主となる。その後井上肥後守に城を譲る。
1571(元龜2)	井上肥後守(権名方)	新庄城、上杉方に攻められ落城。井上肥後守敗走。
1572(元龜3)	勝安良(上杉方)	新庄城に陣し、太田内内を攻めた井上肥後守を破る。 上杉謙信、新庄城に陣し、一向一揆の拠る富山城を攻め落城させる。(民権坂の合戦) 飛騨の將江馬輝盛が来陣し、上杉謙信に面謁する。
1578(天正6)	(上杉方)	織田方の斎藤新五が城中に侵入し、新庄村の地蔵堂坂口に至ったため、上杉方の兵が新庄城より出撃し戦う。(地蔵堂坂口の合戦) その後上杉方の軍を破る(月岡野の戦い)
1580(大正8)	(上杉方)	織田方の神保長任、新庄城を攻め、金山坂下に到着。
1581(天正9)		上杉方松倉城主河田豊清守と富山城主佐々成政が荒川の河原で戦う(荒川の合戦)。
1583(天正11)	土田將監(佐々方)	土田將監の將、許屋平左衛門に襲われ落城。 佐々成政、越中を平定。
1587(天正15)	(前田方)	佐々成政、肥後頼朝により新庄城は前田利家の所有となる。 一国一城令により廢城となる。
1615(元和元)		前田利家が城跡に御陣屋をつくる。

文献にみられる新庄城の歴史

飛鳥～平安時代



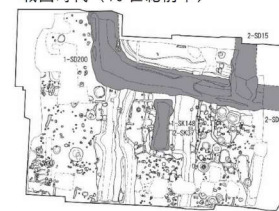
戦国時代(15世紀後半～16世紀前半)



室町時代(15世紀前半)

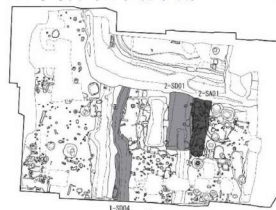


戦国時代(16世紀前半)

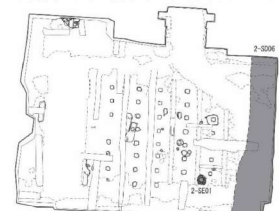


(盛土造成)

室町時代(15世紀中頃)



戦国～江戸時代(16世紀中頃～19世紀)



発掘調査で見つかった遺構の変遷

堀

写真は16世紀前半の堀です。幅6m、深さ1.8～2mの規模で、途中で直角に折れ曲がります。



鍛冶場

小鍛冶と呼ばれる、小型の鉄製品を鍛造した施設を確認しました。鞆の羽口、鉄滓、取鍋、炭などが出土しています。城内で武器などの鍛造や修理を行っていたと考えられます。



井戸

石組、木組、素掘りの井戸が見つかります。一部の井戸の中からは五輪塔や板石塔婆が出土しています。



大規模な盛土造成

16世紀中頃に大規模な盛土造成が行われて、それまでに存在した堀などが埋められ、より大きな城に造り変えられました。写真の点線より上の斜めの土層が盛土です。

